

さがみはら生物多様性 ネットワーク ニュース

発行 さがみはら生物多様性ネットワーク



会員の坂田さんが生物多様性条約締約国会議に出席しました！ エジプトで開催された生物多様性条約COP14報告 —2050年「人と自然が共生する社会」の実現に向けた新たな動き—

2018年11月17日～29日、
エジプトのシャルムエルシェイクで
第14回生物多様性条約締約国会議
(CBD COP14)が開催されました。



COPと聞くと日本では、気候変動枠組条約締約国会議の略称だと勘違いされている人がほとんどです。「COPとは？」とネット検索すると、知恵蔵やコトバンク等でも「気候変動枠組条約の締約国により、温室効果ガス排出削減策等を協議する会議」と誤った情報が出てきてしまいます。実はCOPとは、Conference of Partiesの略で締約国会議のこと。それぞれの国際条約ごとにCOPが存在し、最高意思決定機関の役割を持ちます。生物多様性条約COPは2年に一度開催され、生物多様性に関するさまざまな課題に関して議論、決議が行われています。

今回のCOP14の中で、最も議論に時間が費やされた重要議題は、「**2020年以降の新たな世界目標の検討プロセス**」です。2010年に名古屋で開催されたCOP10では、2050年までに「人と自然が共生する社会」を実現するという長期目標と2010～2020年までの「生物多様性の損失を止めるための行動」として20個の世界目標である「愛知目標」が決議されました。

それから、もうすぐはや10年。来年2020年に北京で開催されるCOP15では「愛知目標」の評価と次なる10年の目標を作らなければなりません。今回のCOP14では、**北京で確定させる新たな目標を検討していくプロセスについて議論、決定が行われました。**

まず、議論の前提となる基本認識は、『「愛知目標」達成のため、新たな取組みは数多く生まれているが(生物多様性さがみはら戦略もその一つです)、生物多様性の劣化は、今なお、世界のほぼ全域で進行中』という深刻なものです。そのうえで、『社会の在り方を変えてしまうほどの劇的な変革が必要』であることが共有され、新たな目標を検討していくために、世界各地で地域ワークショップ等を開催し、多様な人々の参画を可能にするプロセスが採択されました。多様な人々とは、国連機関や

政府代表だけではなく、先住民、NGO、女性、地方自治体、若者、企業、学術研究機関などのすべての利害関係者を意味しています。達成できていない「愛知目標」を引き継ぎつつ、さらに意欲的で、生物多様性の損失を食い止めるための大変革と呼べるような目標を作りあげていくために、市民社会も積極的に生物多様性条約COPに関与していく必要があります。

その他、保護区域、気候変動対策、健康・エネルギー・鉱業・インフラ・製造業、加工業分野での生物多様性の主流化など重要な決議が採択されました。

ほとんどの決議が、国の政策やわたしたちの暮らしに大きく関わるものです。今やグローバルとローカルの橋渡しは、重要な課題です。生物多様性の損失を食い止めるようとする世界の動向と日本の現状は合致しているのかについて問いつつ、次の北京で開催される生物多様性条約COP15を見据えた新たな動きが求められています。

(国連生物多様性の10年市民ネットワーク代表 坂田昌子)



会員活動紹介

塩田のホタルを絶やさないために 田名塩田の自然を愛する会(団体会員)

さがみはら生物多様性ネットワーク広報部会は、今回、田名塩田地区で近年めっきり少なくなった八瀬川のゲンジホタル保全に取り組む「田名塩田の自然を愛する会」を訪ねました。本会は「ホタルを地域の財産にしたい」という思いから2016年に結成され、今年で3年目を迎えます。もともと田名塩田地区は湧水が豊富で、川沿いには水車が並びあちこちの「わさび田」で水わさびが栽培されていました。ホタルもたくさんいて、飛翔の季節には家の中まで入ってくるほどだったそうです。

現在、会は主な活動として、ホタルの生息地の清掃のほか、街灯の照明対策、ホタルの餌であるカワニナの移植放流・餌やりに取り組んでいます。ホタルは光でコミュニケーションをするため、周りの光が強いとそれができず、繁殖行動が妨げられてしまいます。とくに、近年普及しているLEDは蛍光灯より明るいので影響も深刻です。そこで会では、地域住民の方々のご理解を得ながら、街灯に遮光板をとりつけることにより、道路上を照らす光は落とさずに川面への光を減らす対策を行いました。また、カワニナを移植しても、カワニナの餌である付着藻



「さくら橋」から見た八瀬川

類が少ないためにカワニナの定着増加がみられないので、餌としてキャベツなどを与えて繁殖させる活動もしています。さらなる取り組みとして、相模原市主催の「ホタル団体情報交換会」に出席して保全方法の情報共有を行いました。また、会は「相模原のカザグルマを守る会」の自生カザグルマの第2の故郷づくりにも協力しています。将来は地域の自然に関わる幅広い活動にも取り組みたいとのことです。会のみなさんに生息地を案内していただきましたが、川沿いの緑道は素晴らしい環境でした。ホタルを増やすこと、そしてホタル観察会を実施することが会の当面の目標だそうです。夢は地区のメインストリートにある「さくら橋」からのホタル観賞を実現すること。田名塩田の自然を愛するみなさんの奮闘は続きます。



街灯に取り付けられた遮光板

会員募集中!!

さがみはら生物多様性ネットワークに入会して、生物多様性について一緒に考えてみませんか。ネットワークの趣旨に賛同する個人・団体・事業者で活動に積極的に参加していただける方であれば、どなたでも入会できます。詳しくは「相模原市生物多様性ポータルサイト」または右記事務局までお問合せください。

相模原市 生物多様性 検索

年会費…1口 1,000円

個人・団体会員 / 1口以上 事業者会員 / 2口以上

発行者：さがみはら生物多様性ネットワーク事務局
(相模原市水みどり環境課内)

住所：相模原市中央区中央2-11-15

電話：042-769-8242

Eメール：midori@city.sagamihara.kanagawa.jp

